

★企画P02台本『LADY CL/ROWN 2話偽りのベール』
原案：Ariesta
協力：Aria
台本：Ariesta

★場面人物
ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール／ウォルター
ファンダリア／レオミュール
クロエ
その他ガヤ

●場内／中庭

人気のない時間
茂みをかさがさ

ファンダリア「うう。早く見つけないと」

ファンダリア「こういうときはレオンに相談、、あ、でも今は」

ティエール「誰かいるのか！」※きりっと強め

ファンダリア「ひゃっ!？」

ティエール「あなたは……!？」※女性と知り驚き→柔らかめに

●社交ギルド

【ガヤ】この場所の説明

- *「わーきれー」
- *「人いっぱい」
- *「でも今日はもうお仕事ないって」
- *「えー」
- *「せっかく来たのに」
- *「また明日きましょ」

ヴィルロア「仕事がない!!!」

レオミュール「はい、想定を上回る申し出をいただきまして」

ヴィルロア「むむむむむ……!!!」

ルク登場

【ガヤ】ルク登場

- *「あ、ルクレツィア様よ」
- *「カッコイイですわ〜♪」
- *「今日のお供はウォルター君かあ」
- *「かわい〜」

ルクレツィア「あ〜ら。ヴィルロア。今にもその杖振り回してそんな勢いじゃない」

ヴィルロア「ルクレツィア!!!」

ルクレツィア「困ってる人がいないって素敵なことでしてよ～？ うふふふふ」※爽やかな嫌味

ヴィルロア「おぬし」※何かを疑うようにいいかける

ウォルター「ルクレツィアさま～！ 時間だよ！ はやくはやく！」

ルクレツィア「っといけない。あたくし『すっごく』忙しくしてますの。失礼しますわね。ほーっほっほ——げほげほ」※高笑いから咽る

ウォルター「ル、ルクレツィアさま大丈夫？」

ルクレツィア「だ、大丈夫よ。いきましょう」

ウォルター「うん♪」

去るルク

ヴィルロア「のう」

レオミュール「はい」

ヴィルロア「ルクレ（※名前を言おうとして言い換え）、あの女は依頼を受けているか？」

レオミュール「はい。昨日（さくじつ）お申し出いただいております」

ヴィルロア「そうか、ありがとう。依頼については日を改めるとしよう」

レオミュール「……あ。もしよろしければ」

ヴィルロア「ん？」

●城下街／道

ヴィルロア「なるほど。見つけた仕事を依頼として申請してもよい、か」

ファンダリア「はあっ、はあっ、はあっ」※息を切らし走っている

ヴィルロア「んー。仕事も大事であるが同士も要（い）よう」

ファンダリア「はあっ、はあっ、はあっ」※息を切らし走っている

ヴィルロア「どういう者がよいか」

ファンダリア「はっはっは、はあ」

ヴィルロア「ヘルガでは反則がすぎるし、、」

正面衝突

ファンダリア「きゃ！」

ヴィルロア「ぴゃ！？」※正面衝突→尻もち。可愛い感じ

ヴィルロア「いたたたた……」

ファンダリア「ご、ごめんなさい大丈夫ですか!？」

【ギャ】 通行人

*「なんだなんだ」

*「女の子がぶつかった？」

*「フィッシャーさんのところのお嬢様じゃないか」

*「もう一人はどこかで」

ヴィルロア「おぬしこそ大丈夫、」※言いかけて口ごもる

ファンダリア「ごめんなさいごめんなさい!! 探し物を。あ、いえ。急いでて、ええと慌てて、ええと、ええと……!」※パニック早口

ファンダリア「ひゃ!？」※腕をつかまれる感じ

ヴィルロア「ついてまいれ!」

ファンダリアの手を掴み、ヴィルロア走り去る

ファンダリア「ふえええええ!？」※フェードアウトのため長めに希望

●ヴィルロア拠点／入口

ヘルガ「おかえりなさいませお嬢様」

ヴィルロア「うむ、今帰った」

ファンダリア「はあ、はあ……」※息切れを整える呼吸

ヘルガ「そちらのお嬢様はブラ」※ブランシュブルク王女と言おうとする

ヴィルロア「依頼人にして助手ぞ」※言葉を遮る

ファンダリア「はあ、はあ……?」※息切れしながら「依頼人・助手」に反応

ヴィルロア「準備は?」

ヘルガ「完了しております」

ヴィルロア「流石だな、ありがとう。早速だが会議をしたい」

ヘルガ「サロンをお使いになられるのがよいかと」

ヴィルロア「そうか」

ヘルガ「ではこちらへ」

ファンダリア「え、ええっと……」※困惑

ヴィルロア「ほれ、ついてまいれ」

ファンダリア「は、はい!」

●ヴィルロア拠点／応接室

ヘルガ「どうぞごゆくり」

ファンダリア「あ、あの〜〜」※申し訳なさそうに

ヴィルロア「ん、なんじゃ？ ええっと、」※名前知らない事に気付く

ファンダリア「あ。わたしはファンダリアです」

ヴィルロア「わらわはヴィルロア・フィッシャー。よろしくの、ファンダリア」

ファンダリア「こちらこそよろしく申し上げます」※丁寧に

ヴィルロア「で。何を探して？」

ファンダリア「ええと。お母さまの形見なのですが、」※語ろうとして遮られる

ヴィルロア「それは一大事！ その手の失せ物は最後にみたところよの！ ゆくぞファンダリア案内せい！ ヘルガ行ってくる！！」※勢いよく畳みかける感じで

ファンダリア「へ？ ふえええええ！？」※フェードアウトのため長めに希望

ファンダリアの手を掴み、ヴィルロア飛び出す

ヘルガ「行ってらっしゃいませお嬢様」※丁寧に

●城／入口

【ガヤ】城入城

*衛兵「入場には通行証が必要です」

*「はい、お願いします」

*衛兵「はい、確かに。お通りください」

*衛兵「次の方、通行証を確認させてください」

*「ええっと、どこに、あれ」

ヴィルロア「ここはブランシュブルクの城であるが」

ファンダリア「はい。中庭では確かにありました」

ヴィルロア「なるほど。しかし入城（にゆうじょう）には手続きが要るが」

ファンダリア「あ、それは」※心配ないですよ、と言いたい感じで

ヴィルロア「問題ない」※ファンダリアを遮って

ファンダリア「え？」

フルクロア（鷹）を呼ぶ

ファンダリア「あれは……。鷹？」

ヴィルロア「うむ。かわいいフルクロアよ」※「よ」＝「である(※堂々と)」

フルクロア「ピ」

ヴィルロア「よしよし、いいこいいこ」

ファンダリア「まるで言葉がわかってるみたい」

ヴィルロア「それに近いの。ゆくぞ」

ファンダリア「は、はい」

入城列に並ぶ

*衛兵「次の方どうぞ」

ヴィルロア「証はこれに」

フルクロア「ピ」

*衛兵「鷹が通行証……、ですか？」

ヴィルロア「足を」

*衛兵「ええと、これは……。はい、確かに。どうぞ入城ください」

ヴィルロア「ゆくぞ、ファンダリア」

ファンダリア「は、はい！」

*衛兵「ファンダ……」

ファンダリア「しー」※「しー」＝何も言わないでねというお願い

*衛兵「は、はい」

●城／中庭

【ガヤ】すれ違う人々

*「ああ忙しい忙しい」

*「次は受付の掃除を」

*「か、花瓶割っちゃった……」

*「あーあー、びしょぬれ」

*「貴族はなんで急にあんなことを」

*「ファンダリア様も大変ですよ」

*「レーヴェ卿も頭が痛いでしょうに」

*「あれってファンダリア様？ 忘れ物かな？」

ヴィルロア「中庭は相変わらず人が多いの。してどのあたりか目星は」

ファンダリア「植木の影とかに落としたのかなって探していたのですが」

ヴィルロア「それは見て見ぬとであるが。ファンダリアはなぜ城に？ 観光か？」

ファンダリア「それは」※言いかけて遮られる

ルクレツィア「あ～らヴィルロア」※挑発的に

ヴィルロア「む。その声は」※嫌そうに

ルクレツィア「観光かしら～？ あたくしは仕事でしてよ。し、ご、と！」

ヴィルロア「わらわも依頼よ！ 非常に重要な、の！ どうせルクレツィアは書類届けとかおつかいであろう」※「よ」「の」は「である」の断定感

ルクレツィア「おあいにくさま。大変名誉なものよ～？ 特別に教えて差し上げますわ」

ヴィルロア「ほお」

ティエール「え？ 言っちゃうんですか？」

ウォルター「ごくひにんむじゃないのー？」

ルクレツィア「ティエール、ウォルター。心配しないで」※優しく諭すように

ヴィルロア「（茶髪の優男がティエール、金髪のお子様は最近増えたウォルターであったな）」

ルクレツィア「あたくしは今、王女さまの護衛をしましてよ」

ファンダリア「え？」

ルクレツィア「このお方がその人！ 王女さまが身に付けられてるペールこそブランシュブルク王家に代々伝わるもの。これを見誤ることなんて、」

ファンダリア「ヴィ、ヴィルロアさん！！」

ヴィルロア「なんじゃ」

ファンダリア「あ、あれです！ わたしが探しているもの！」

ヴィルロア「なに！？」

ルクレツィア「あら？ そういうこと。貴方が対抗勢力でしたのね」

ヴィルロア「対抗勢力？ 話がみえぬが、それはファンダリアの失せものと言っておる。なればわらわは取り返すのみ」

ルクレツィア「聞いていませんでしたの？【※呆れ感】 まあそうですわよね～まさか自分が間違ってるなんて認めたくないですもの、その気持ちわかりますわ～。ですけどこのペールは、」※同情同調に見せかけた上から目線。「ペールは、」で言葉が切れる。

◆立会人：レオン登場

レオミュール「資格者の接触を確認しました」

ヴィルロア「あ！ おぬし！ 先ほどギルドで」

ルクレツィア「レオミュールさま！」

ファンダリア「レオン！」

クロエ「レ、レオミュール様」※うろたえる感じで

◆争奪戦：開始挨拶

レオミュール「お疲れ様です。私は争奪戦の審判を務めるレオミュール・レーヴェです。よろしく願います。さて、対象装具はクロエ・ペンタクイーン様が所持されています。ペールですね。ファンダリア様、継承資格へ挑戦なされますか？」※丁寧な事務的

ファンダリア「え、あ、はい！ もちろんです！！」※怯えつつはっきりと

クロエ「え、私……」※想定外なことに狼狽える

レオミュール「クロエ様、大変申し訳ありません。ご意志を」

クロエ「……わかりました、挑戦します」※覚悟を決めたように

レオミュール「双方のご意思確認しました。方法は……そうですね。取られぬように守る、隠れたものを見つける。鬼ごっこかかくれんぼは如何でしょう」

ウォルター「わあ！ 鬼ごっこたのしそー！！」

◆争奪戦「鬼ごっこ」：ルール確認

レオミュール「かしこまりました。それでは鬼ごっこにいたしましょう。制限時間は……そうですね、15分で。挑戦者側であるファンダリア様がクロエ様を捕まえられれば勝利です。クロエ様は時間いっぱい逃げきれば勝利。ファンダリア様はクロエ様が離れて2分後に出発してください、合図は私が。以上質問はございますか？ なければ開始といたしますが」

ファンダリア「ありません」※ぴしっと

クロエ「え、あ。はい。だ、大丈夫です」※不安そうに

ルクレツィア「レオミュールさま」

レオミュール「ルクレツィア様どうぞ」

ルクレツィア「護衛ルールは確認の通りですね」

レオミュール「はい。変更ありません」

ルクレツィア「でしたら大丈夫です。ありがとうございます」

ヴィルロア「護衛……??」

レオミュール「他ございませんね。それではクロエ様、どうぞお逃げください」

クロエ「は、はい……！」

◆争奪戦「鬼ごっこ」：クロエ出発

ルクレツィア「ティエール、行って！」※意：クロエを追いかけ護衛・援護しなさい

ティエール「はい、ルクレツィア様！」

ルクレツィア「ウォルターはこっちで」

ウォルター「はい」

ティエール去る

ヴィルロア「何がどうなっている?? 話がまったく見えぬ」

ルクレツィア「あら、やっぱりただの観光に居合わせただけだったとか」※にやにや

ヴィルロア「むっ」

ファンダリア「大丈夫です、ヴィルロアさん」

ヴィルロア「ファンダリア? おぬしは何が起きているのかわかって」

レオミュール「それではファンダリア様。どうぞ出発ください」

ファンダリア「はい!」

◆争奪戦「鬼ごっこ」: ファンダリア出発

ヴィルロア「ファ、」※「ファンダリア!」と呼び止めようとし遮られる

ウォルター「ヴィルロアおねーちゃん♪」

ヴィルロア「ん」

ウォルター「ボクはウォルター・シュワルツだよ♪ よろしくね♪」

ヴィルロア「ルクレツィアのところに保護されている者よの」

ウォルター「うん!」

ヴィルロア「おぬしは何がどうなっておるのか知っているのか?」

ウォルター「えへへへ〜。どーしよっかなー。んーっと、あ!! おねーちゃんのその杖って仕込み杖?」

ヴィルロア「そうであるが、それがどうかしたか」

ウォルター「よーし! ボクのサーベルと打ち合って時間内に勝てたら教えてあげる! いくよー! 【※抜剣】 ええーい! 【※剣振】」

★ウォルター抜剣

【ガヤ】周りの目

- *「きゃあ」
- *「うわ!」
- *「なんだなんだ」
- *「見世物かしら」

ヴィルロア「なっ! 周りには人が! くっ【※剣受】」

ウォルター「さっすがー! どんどんいくよー!」

ヴィルロア「おい! ルクレツィア、どういう教育を」

ヴィルロア「ぬっ【※剣受】」

ウォルター「よそ見しちゃあぶないよ！ ほら！【※剣振】」

ヴィルロア「危ないのはおぬしぞ！」

ウォルター「ほら、どうしたのヴィルロアおねーちゃん！ えーい！【※剣振】」

ヴィルロア「くっ【※剣受】仕方なしか！」

ウォルター「そうこなくっちゃ♪」

◆争奪戦「鬼ごっこ」：レオン決着感知

レオミュール「む」※何かに気付いたように

ルクレツィア「どうしましたレオミュールさま」

レオミュール「鬼ごっこの決着がついたようです」

ルクレツィア「あら」

ヴィルロア「ゆくぞ！ はあ——！」※渾身の一撃

ウォルター「いくよ！ やあ——！」※渾身の一撃

ルクレツィア「ウォルター、王女さまのお迎えにいきましょう」

ウォルター「はあーい♪ ルクレツィアさま♪」※ころっと戦意ゼロへ

ヴィルロア「ぬお！【※ウォルターの戦意が急に無くなったので攻撃をしてはいけないという意思が働く】、くうっ【※回避策として転ぶことを選ぶ】」

ヴィルロア「きゅ、急に動きを変えるでない！ 危なかりょう！！」

ウォルター「えへへ、ごめんなさーい！」

レオミュール「私は先に」

◆レオン移動魔法（消える）

ヴィルロア「移動魔法、か」

ルクレツィア「立ち合い用だそうでしてね」

ヴィルロア「便利よのう。ルクレツィアの地獄耳なんぞと比べたら」

ルクレツィア「もう一度いってみなさ……いえ、いいですわ」※怒りを中断し余裕へ

ヴィルロア「なんだ珍しい」

ルクレツィア「さあ行きましょ。あなたの負け惜しみ楽しみでしてよ！ おーほほほほほ！」

●城／中庭

ルクレツィア「なんですってええええええ！？」※すっごい驚き

レオミュール「ファンダリア王女の勝利です。そしてファンダリア王女はこちらです」

ファンダリア「ヴィルロアさんありがとうございました！ 無事取り戻せました！」

ヴィルロア「おお、よかったのファンダリア。……で、ルクレツィア。負け惜しみがなと？」

ルクレツィア「ぬぬぬぬ。ティエール！ 貴方がついていながら！！」

ティエール「すみませんルクレツィア様」※爽やかにニコッ

レオミュール「クロエ様もお疲れさまでした。けがなどはありませんか？」

クロエ「大丈夫です。……レオミュール様、私は」

レオミュール「本件の詳細は後ほど連絡させていただきます」

クロエ「はい、……わかりました」※レオミュールへ丁寧に

クロエ「ファンダリア様」※丁寧に

ファンダリア「は、はい！？」

クロエ「ありがとうございました」

ファンダリア「あ……。いえ、こちらこそ」

クロエ去る

ヴィルロア「ところでぞ。ファンダリアでもギルド受付でもよいのだが、何がどうなっておる？」

レオミュール「ああそれは失礼しました。説明させていただきます」

●ヴィルロア拠点

ヴィルロア「……というわけである」

ヘルガ「そうでしたか。貴族長は王位継承のために試練を課したのですね」

ファンダリア「はい」

ヘルガ「これまでにそのような事例はございません」

ファンダリア「はい。儀式のための装具は資格証として取り上げられてしまっ」

ヴィルロア「唯一渡されたベールも早々に失くし、か」

ファンダリア「ヴィルロアさん、ありがとうございました」

ヴィルロア「いやわらわも助かった」

ルクレツィア「え？」

ヴィルロア「こちら、便利屋が社交競技になったの。依頼人と協力者を探しておった。双方同時に縁を得られたこと僥倖」

ファンダリア「あ、ああ。わたしでどこまでお力になれるかわかりませんが」

ヴィルロア「では改めて。わらわはヴィルロア・フィッシャー。ここを拠点に便利屋をはじめた」

ヘルガ「わたくしはヘルガ・クラウゼ。フィッシャー家の使用人でございます」

ファンダリア「わたしはファンダリア・C・ブランシュブルクです。よ、よろしくお願ひします！」

ヴィルロア「よろしくのファンダリア！」

以上

HP／奇蹟の音箱 : <https://archaries.web.fc2.com/>